

第1回検証会議の振り返りと今後の進め方(案)

■ 検証会議の目的

- 「検証会議」は、令和3年1月の短期間に集中的降雪となった異常降雪における除雪対応について、表面化した様々な課題等に対して関係団体等から協力を得ながら**広く意見を集め相互共有するとともに、持続可能な除雪体制への改善へつなげていくこと**を目的に設置する。

■ 平成29年度の豪雪を踏まえた主な取組み

- 平成29年度も記録的な豪雪が生じたため、検証会議でご意見を頂きながら取組みを行った。

| No. | 主な取組 |
|-----|---|
| 1 | ICT(除雪車運行管理システム)の導入 (リアルタイムの除雪車の稼働状況の把握) |
| 2 | 新たな雪捨て場等の確保 (運搬時間短縮による作業の効率化) |
| 3 | PRパンフレットの作成・配布・公開 (道路除雪に関する市民への周知・理解) |
| 4 | 凍結防止剤散布の見直し(出動基準等) |
| 5 | 市内部の除雪応援体制の確立 |



■ 令和2年度の豪雪における特徴

① 気象条件

- 地球温暖化により、日本海の海面水温が高くなったことから、より多くの水蒸気が大気に供給され、蓄えられた状態になった。
- そこに、「日本海寒帯気団収束帯(JPCZ)」が発生し、**強い寒気が流れ込んだため、大雪となった。**
- 豪雪のメカニズム(右図参照)



② 新潟市における降雪状況(平成29年度との比較)

| 年度 | 累計降雪量 | 特記事項 |
|-----|--------|---|
| H29 | 313 cm | ・大雪は、沿岸部の一部の区に集中していた。 |
| R2 | 234 cm | <ul style="list-style-type: none"> ・1月上旬の10日間の平均累計降雪量が150 cmに達した。 <ul style="list-style-type: none"> ➢ この10年間で最も短期間に記録された降雪量。 ➢ 平年の1年間の累計降雪量を超える異常な降雪量。 ・「かき分け除雪」を実施したが、短期間の大雪で、道路脇に雪置き場がなくなり、交通可能な幅員の確保が困難になったため、排雪を多く行った。 |

新雪除雪(かき分け除雪)

排雪

雪山により交差点の見通しが悪くなったときなどに雪をトラックに積み込んで運び出す作業

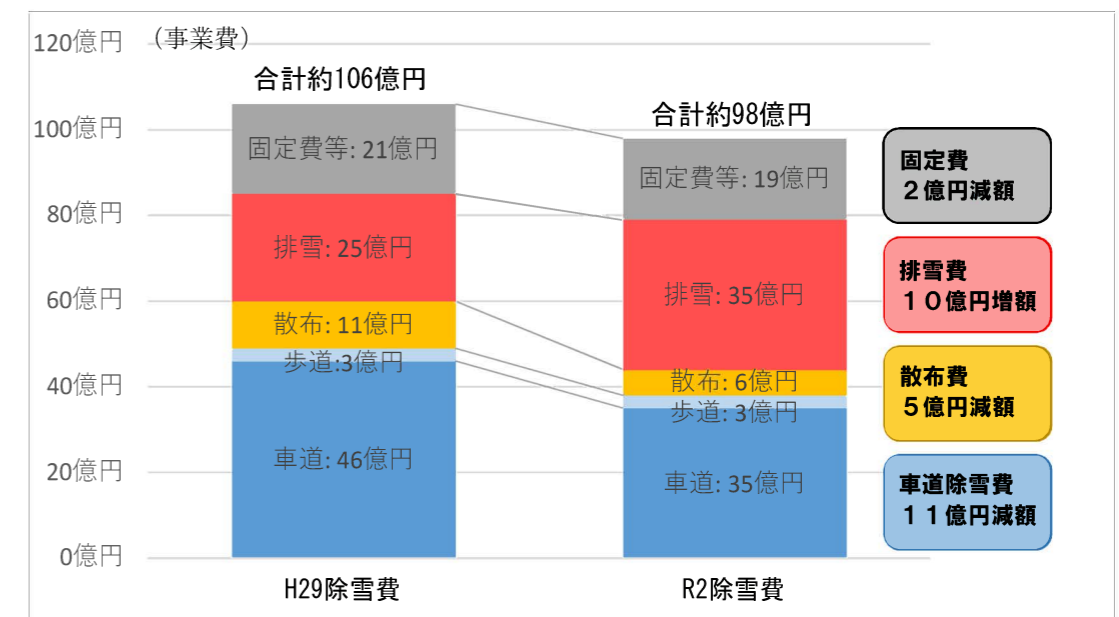
雪捨て場までトラックの往復が必要のため、新雪除雪に比べ作業に時間と費用がかかります

短期間の豪雪によって、雪置き場がなくなり、通行ができなくなったため、排雪を実施した

・上記の異常降雪が、8区すべてで発生した。(区相互間の応援不可)

③ 新潟市における項目別の除雪費

- レンタル機械をリース機械に切り替える取組みや、スノーポールの通年設置等の取組みにより、**固定費については除雪費用の縮減に効果があった。**
- **記録された降雪の影響により排雪費用が多くかかった。**
- 散布費は、**出動基準を見直したことにより減額となった。**
- 【参考】新潟県の除雪費：139億円(H29)から148億円(R2)に増額(9億円増)



■ 第1回検証会議でいただいた指摘事項と今後の進め方(案)

◆ 第1回検証会議 ご指摘をいただいた「新潟市の道路除雪に関する問題点」 『異常降雪時の対応について、市民の理解が得られていない』

- 「広報」に関して気になる部分がある。大雪等の災害事態における「道路管理者の限界」ということをまだ広報しきれていないのではないかと。
- 地球温暖化の影響により、昭和の時代のような大雪が、何年かに1度降る可能性があるということを広報できていない。今の財政状況で、**完璧な除雪対応は無理だ**ということ、**市民に理解いただく必要がある。**
- 市民に「外出を控える」という認識をどれだけ伝えられるかが重要。災害級の異常降雪のなか、**学校や企業に休むように協力を呼び掛けてはどうか。**

◆ 第2回検証会議(今回)

- 第1回検証会議でご指摘をいただいた問題点と対応案について、市内部で検討した結果、**現段階の「方針案」**をとりまとめた。
- **第2回検証会議においては、この「方針案」に対して、ご意見を頂く。**

◆ 第3回検証会議(10月末～11月初旬に開催予定)

- 第2回検証会議でご提示した「方針案」に対するご意見を反映した「**方針案(修正)**」を報告する。

- ◆ これまでの議論を踏まえ、11月中旬頃に、「**新潟市への提言書(中間とりまとめ)**」をご提出いただきたいと思います。